血管障害患者の血流障害の程度および手術効果を判定する上で，今後さらに重要な検査法のひとつになりうるものと考えられる．

4. Prolactin-Radioimmunoassay kit の基礎的検討および臨床応用について

山藤 靖展　二宮 哲博
石飛 和幸　原田 義道
（鳥取大・3内）

CIS 社製の Pr RIA キットの基礎的検討およびその臨床応用について検討した．first incubation time の至適時間はほぼ 42 時間にあり，second incubation time はほぼ3時間にあった．incubation temperature は 4°C が 20°C より良好であった，crossreaction は TSH, GH, FSH, LH, ACTH ともに交叉反応を示さなかった．24歳の女性で分娩後 48 時間目の血清の dilution curve は standard curve と良好な平行性を認めた．本 assay system の inter-assay variance は平均，9.8%，inter-assay variance は平均12.5% であった．臨床例では TRH 500 μg 負荷後の血中 Pr 値は健常女子が健常男子に比して高値を示した．甲状腺機能低下症は過剰反応を呈したが，治療による euthyroid state では正常反応を示し Basedow 病では低反応であった．Turner 症候群でほぼ正常反応を，Anorexia Newosa では 1 例は低反応であるも他は遅延反応を呈した．視交叉部の色素嫌性腺腫 1 例では過剰反応を，同部の異所性松果体腫の 1 例は正常反応を呈し，下垂体疾患 4 例では正常もしくは低反応を呈した．

5. ヒト LH の Radioimmunoassay 二種市販 kit の検討

大藤 信子　高原 二郎
大藤 真
（岡山大・3内）

現在ヒト血漿 LHRIA に広く用いられている LH kit「第一」と LHK (CIS) について検討を行った．測定はいずれも二抗体法によるが「第一」は第二抗体注入及び B-F 分離操作がより簡便であり，(CIS) は全過程の所要時間がより短時間である．LH kit「第一」：標準曲線は 1.95～500 mIU/ml の間で良好であり，高 LH 濃度血漿の稀釈曲線もよく標準曲線に平行した．accuracy は C.V. 14%以下，recovery 85%以上，中等度 LH 濃度までの assay 内 precision 及び assay 間 precision はそれぞれ C.V. 10%以下，15%以下と満足すべき結果を得た．この kit で測定した正常人の血漿 LH 値は，男子 8.7±2.0，女子卵胞期 15.7±9.7，排卵前期 166.5±110.0，黄体期 8.7±4.0，閉経期 211.1±86.2 mIU/ml であった．LHK (CIS)：標準曲線は 0.5～50 ng/ml の間で良好であり高 LH 濃度血漿の稀釈曲線はこれによく平行した．accuracy, recovery は中等 LH 濃度以上ではそれぞれ C.V. 13.5% 以下，70% 以上と良好であったが，低濃度部分にはともに難点があった．しかし assay 間 precision は低濃度血漿においても 10% 以下と良好であった．2 回の assay 間には回帰直線 $Y=1.06X+0.18$ ($\gamma=0.99$) を得，よく相関した．LH kit「第一」と LHK (CIS) との測定値の相関は回帰直線 Y (ng/ml)=0.08X (mIU/ml)+0.006，相関係数 0.97 と良好であった．

Presented by Medical*Online